

くも蜘蛛ですがなにか？

Kumo desuga.
nanika?

著 馬場翁

okina baba

イラスト 輝竜司

tsukasa kiryu

ガドカワBOOKS



馬場翁

OKINA BABA

関東に生息する生物。3度の飯より寝るのが好きなまけもの。書いた小説の半分は夢の中のお告げに従っている(嘘)。

Illustration: 輝竜司
Design: 仲堂舎



私が丹精込めて作り上げた家が

何の抵抗もできずに火の海に徐々に飲み込まれていく。

私は駆け出した。

複雑に張り付いた蜘蛛の巣を、器用に通り抜けていく。

最後の網。

そこを越えれば

もう二度とこの場所には帰ってこれない。

そこを越えればもう安全なんてどこにもない。

それでも私は迷わずに最後の網を滑る。

振り返りたい衝動にかられたけど、

そんなことはしない。

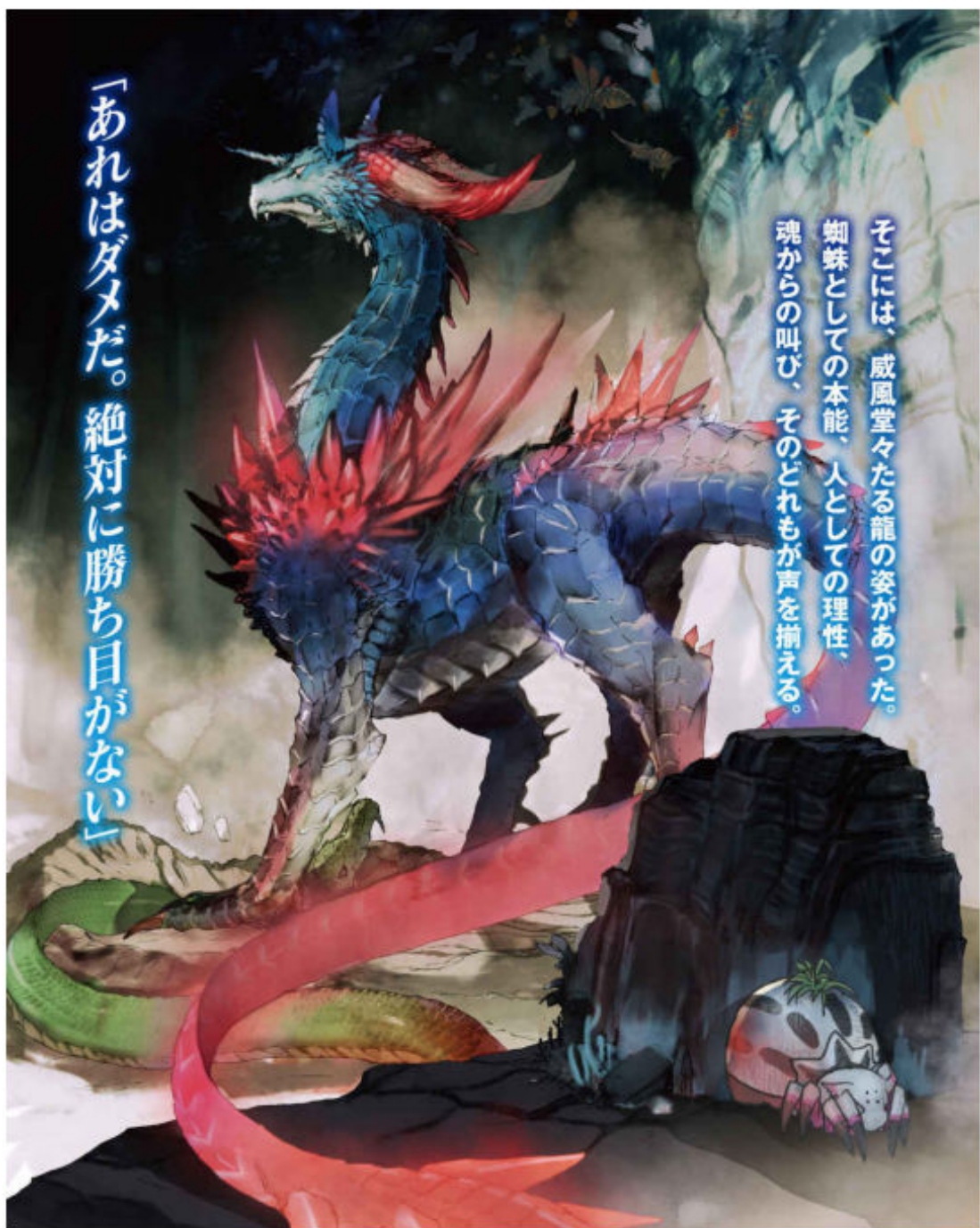
今は少しでも遠くに逃げることを考える。

こうして私は、マイホームを追われることになった。



そこには、威風堂々たる龍の姿があった。
蜘蛛としての本能、人としての理性、
魂からの叫び、そのどれもが声を揃える。

「あれはダメだ。絶対に勝ち目がない」



蜘蛛ですが、なにか？

馬場 翁

カドカワ
BOOKS



蜘蛛ですがなにが？

Kumo desuga,
nanika?

著 馬場翁
okina haba

イラスト 輝竜司
tsukasa kiryu

contents

1	最初からクライマックス——	005
S1	日常が終わった時——	020
2	家賃0円のお宅——	025
S2	転生——	041
3	卵——	061
4	巣立ち——	076
S3	孵化するもの——	086
5	初めてのモンスターバトル——	091
S4	スキル——	105
6	ボーナスステージ？——	110
S5	二人目——	124
7	進化するよー——	131
幕間	とある冒険者の独白——	153
8	落ちる——	157
幕間	とある冒険者の撤退——	177
9	蜘蛛 VS 蜂——	179
S6	鍛錬——	211
10	下層攻略——	218
S7	第二王子——	235
幕間	勇者と父王——	241
11	下層まだまだ攻略——	246
S8	エルフの娘——	272
12	地上100メートルの攻防戦——	280
13	終幕——	317
	あとがき——	318

ラス 名シ簿

10月1日 / 岡崎香奈美先生

女子

飯島 愛子

漆原 美麗

松谷 麻香

工藤 シズ智

瀬川 冬子

瀬川 咲

岡 久美子

瀬川 千恵

華三子

長谷川 志保

古川 未来

17色

勇者と魔王の戦いが幾度となく繰り返されてきた世界があった。

その中で放たれた時空の大魔法は、日本のとある高校の教室で炸裂した。

教室内にいた全ての存在は魔法の直撃を受け、あっけなく命を落とした。

彼らの魂は、異なる世界で飛散し、それぞれが新しい命として生まれ変わる。

1 最初からクライマックス

うぐおがー！

叫び声をあげたつもりだったんだけど、うめき声も出やしない。

それだけ今の私の体はやばい状態なのか？

OK、落ち着け私。

体に痛みはない。

古文の授業中に、いきなりものすごい激痛に襲われたところまでは覚えてる。

多分それで気を失ってたんだと思うんだけど、今はどこも痛まない。

けど、目を見開いても真っ暗でここがどこだかもわからない。

というか、まるで体を何かに覆われているみたいな感じで動かせない。

感じというか、実際に、何やら微妙に弾力のある、けど硬い謎物質でできた何かに包まれてるっぽい。

外からはカサカサという音が微かに聞こえる。

え、何この状況？ 拉致？

イヤイヤ。

私みたいな最底辺女攫^{さら}って誰が得するよ？

いろいろ疑問だけど、とにかく、脱出せねば。

ピシッという音が響いた。

お、体に入力を入れて踏ん張ってみたら、私を覆っている何かが壊れはじめた。

よし、このまま壊していざ脱出！

さらに力を込めると、パカッと開いた。頭から這^はい出す。これで私は自由だー！

目の前に大量の蜘蛛くもがウヨウヨしてた。

ホワイツ!? ウエエエエイエ!? キシヨツ!?

なにこの巨大蜘蛛軍団!? 一匹一匹が私と同じくらいでかいんですけど!? え、なんか卵みたいなものから次々出てくる! さつきカサカサ聞こえてたのはこれかー!!

思わず後ずさる。足に何かがあたって振り向く。

うん?

これは、あれか? 私がさつき這い出してきたものか? なーんか、蜘蛛軍団の卵に似てるように見えるのは気のせいか? 似てるというか、そのものじゃね?

改めて自分の姿を見直す。首が動かない。けど、視界の端に私の足らしきものが映った。

……蜘蛛の足が。

おおおおおおおおお落ちちち付けけけ!!!

こ、これは、まさかのあれか!? あれなのか!? 今ネットリゆうこうで流行のあれなのか!?

イヤイヤイヤ!

違うよね? 違うと言ってくれ!

もう一度チラッと横を見る。周りにワサワサいる蜘蛛と同じ、細い針金のような足があった。意識して足を動かしてみる。私の思い通りに動いた。

うむ。ここは潔く認めなければならぬ。

どうやら私は、蜘蛛に転生してしまったらしい。

ないわー。

だが、途方にくれている間もなく、ボリボリツという音が聞こえてきた。何やら不穏な音だ。うん。

現実から目をそらしちゃ、ダメだ。私の目の前にはおそらく私の兄弟と思われる蜘蛛軍団がいる。

音を出すとしたら奴らしいない。

そーっと視線を前に戻す。そこには、ボリボリツと仲間を食う蜘蛛がいた。

ホギヤーツ!? なにさらしとんじゃこいつら!? えつ、食ってる? 共食いしてる!?

私の目の前では、兄弟たちによる血で血を洗う生存競争が始まっていた。

イヤイヤイヤイヤ! まずいまずい!

どうして血を分けた兄弟で争わなければならないんですか!? あ、餌ですね。お腹減ったんです

ね。私も実は結構お腹減ってます。

ハッ!? いかんいかん。

現実逃避してた。こんな戦場にいたんじゃ、いたいけな女子高生たる私はあつという間に男たちの毒牙^{どくが}にかかってしまう! 比喩^{ひゆ}でもなんでもなくまんまの意味で!

こういう時は三十六計逃げるにしかず。

戦う? ムリムリ。

こちらら生粋きっすいの帰宅部。あんなバイオレンスでキモイ連中と戦えるわけがないでしょ。あ、今の私の姿はあいつらと同じだった。

うん。

無駄なこと考えてる暇があつたら逃げよう。そう思ったけど、どうやら少し遅かったらしい。ズンツという地響きが起こる。今度はなんだ!? 音と振動は背後から。後ろを振り向いたら、そこには見上げるほど巨大な大蜘蛛がいた。

オウ、マザーですか? それともファザーですか?

いかんいかん。

また混乱してた。というか、え、でかすぎでしょ!? 私の大きさの数十倍はありそうだ。

私の記憶が正しければ、地球上にそんな巨大な蜘蛛はいなかったと思うんですけど?

あ。

ヒョイ、パクツて感じで、大蜘蛛が小蜘蛛を爪の先でぶっ刺して食った。

おつまみを食べるみたいな感覚で。

マザー、貴様もか……！

考えるのは後だ。今はここから無事逃げ出して、生き残ることを目指す！